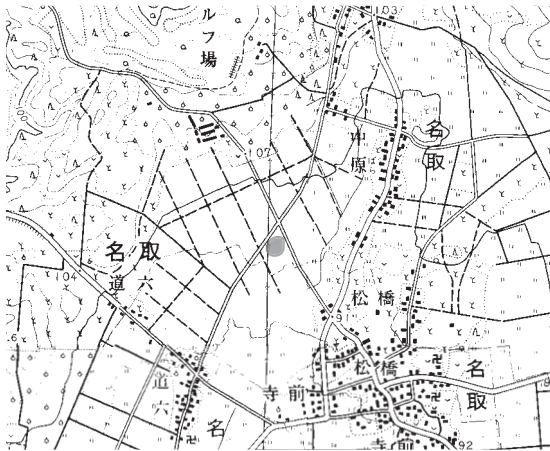


たむかい 田向 2 遺跡 (第 2 次)

遺跡番号 208-127
調査回数 第 2 次
所在地 村山市名取字田向
北緯・東経 38 度 30 分 18 秒・140 度 22 分 12 秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起 因 事 業 東北中央自動車道 (東根～尾花沢間)
調査面積 2,300 m²
受託期間 平成 24 年 4 月 6 日～平成 25 年 3 月 29 日
現地調査 平成 24 年 5 月 23 日～8 月 10 日
調査担当者 菅原哲文 (現場責任者)・安部将平
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・村山東根土地改良区・村山市教育委員会・
村山教育事務所

遺跡種別 集落跡
時代 平安時代
遺構 竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑・柱穴
遺物 土師器・須恵器・陶磁器 (文化財認定箱数: 5 箱)



遺跡位置図 (1:25,000)

調査の概要

田向 2 遺跡は、山形盆地と尾花沢盆地との境にある、河島山段丘の南麓につながる低地部に立地する。平安時代の集落跡と考えられる遺跡である。東北中央自動車道 (東根～尾花沢間) に伴う発掘調査で、平成 22 年度に第 1 次調査 2,500 m² を実施した。今年度の第 2 次調査では、第 1 次調査区 (1・2 区) に隣接する約 2300 m² を対象とした 3・4・5 区を設定し、5 月中旬から 8 月上旬にかけて調査を行った。

遺構と遺物

調査区は、戦前に行われた開墾や昭和 41～43 年に行われた圃場整備により、攪乱・削平された部分は認められなかったが、平安時代を中心とする遺構・遺物を検出した。

3 区は、掘立柱建物跡が 4 棟、土坑、柱穴などを検出した。SB25 掘立柱建物跡は、間取りが桁行 3 間、梁行 2 間、総長 7m × 4.8m となる。SB36 掘立柱建物跡は、間取りが桁行 3 間、梁行 3 間の総柱建物と考えられる (写真 1)。東西 8m、南北 8.2m、柱の間尺は 2.5～2.7m を測る。また、SB25・36 は南北の主軸がほぼ揃っていることから、同時期に存在していた可能性が高いと考えられる。土坑は、SK53・54 などを検出した。両土坑は 3 区南東隅に位置し、円形で直径約 75～100cm、深さ約 40cm である。覆土は廃棄によって人為的に堆積した様子が認められ、土師器がまとまって出土した。特に、SK54 からは、完形の土師器坏が出土している (写真 2)。

その他、遺構出土ではないが、近世の陶器播鉢、肥前産の磁器碗なども出土している。

4 区は、溝跡、土坑などを検出した。SD60 溝跡は、幅 0.2～1.2m、長さ約 5m、深さ 5～40cm を測る。遺物がまとまって廃棄されており、土師器 (坏・皿・甕) 黒

色土器、被熱した礫が出土している（写真3）。また、SD60から出土した土師器坏・皿は、口径に対して底径が半分以下で、器高が低い特徴をもつものが中心であり、これらは10世紀代の所産と考えられる。県内では、同時期と考えられる資料の出土例は多くはない。

5区は、調査区3・4区の間を通る農道を6m×21mの範囲で掘削した地区である。この5区からは、竪穴住居跡1棟（ST68）、溝跡などを検出した。ST68は、4.0m×6.5mの長方形を呈する竪穴住居跡である（写真4）。ST68に付属する施設は、住居南辺に構築されるカマド（EL79）、住居内壁面に沿う周溝（ED83）、貯蔵穴と考えられる土坑（EK84）などを検出した。遺物は、床面からは黒色土器坏、カマド付近からは、土師器甕や須恵器甕などが出土している。

まとめ

当遺跡は、掘立柱建物跡と竪穴住居跡から構成される平安時代を中心とした集落跡である。掘立柱建物跡は、建物の軸線が異なる2つのグループが認められ、時期差が想定される。溝跡や土坑群からは、県内では出土例が

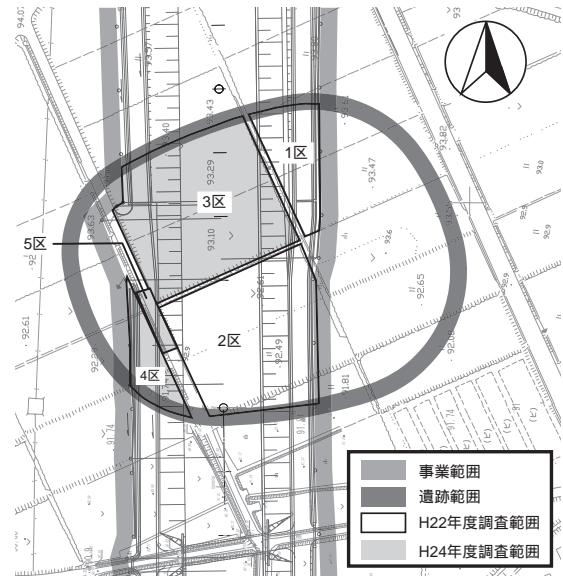


図1 調査区概要図（1：3,000）

少ない10世紀代の土師器がまとめて出土した。村山地方の10世紀代（平安時代末期）の集落跡を解明する上で、良好な資料と言える。



写真1 3区 SB 36 完掘状況（東から）
人が立っている所が柱穴の跡



写真2 3区 SK54 遺物出土状況（北西から）



写真3 4区 SD60 遺物出土状況（東から）



写真4 5区 ST68 完掘状況（北西から）